

# 令和2年度 第1回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録

日時： 令和2年6月18日(木)

13:30 ~ 15:45

場所： 御殿場市民会館 会議棟3階 第7会議室

## 1 出席者

〔御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 委員〕 ※敬称略

芹澤 直己、岩淵 貴司、渡邊 恵子、児島 洋美、小宮山 なほみ、鎌野 順子、勝亦 恵美子、  
立道 佳之、杉山 清、芹澤 知輝、鈴木 隆広、鈴木 峻介、宮代 志穂、勝又 美絵  
計 14名

〔御殿場市市民協働型まちづくりアドバイザー〕 ※敬称略

牛山 久仁彦（明治大学 政治経済学部教授）

〔事務局(市民協働課)〕

井上課長、浅野統括、小長井

## 2 協議事項

(1) 令和元年度協議会事業報告及び令和元年度協議会収支決算について(監査報告)

〔内容〕

令和元年度の御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会の事業報告及び収支決算の内容を事務局から説明、監事(児島委員)から監査結果の報告、承認。

〔質疑・意見等〕： なし

(2) 令和2年度協議会事業計画(案)及び令和2年度協議会収支予算(案)について

〔内容〕

令和2年度の御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会の事業計画(案)及び収支予算(案)の内容を事務局から説明、承認。

〔質疑・意見等〕： なし

(3) 市民協働型まちづくり事業補助金 申請事業の審査・選考

〔内容〕

審査資料、プレゼンテーション動画及び質問事項への書面回答を受けての採点結果(順位付)、審査員からのコメント等を踏まえ各事業の内容について協議し、補助金交付の可否や金額の満額・減額、付すべき条件について決定する。

本年度は市民提案事業 6事業の提案があり、いずれも満額で承認とした。

## 【市民提案事業】

- (1) 事業名： 家族を守るママ防災〔新規(1年目)〕  
団体名： 御殿場ママ活情報局  
市の担当課： 危機管理課

### 〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・団体の特性を生かした提案であり、持続可能な事業。期待しています。防災に強い御殿場というのが根付くことを願っています。
- ・団体の会員のみならず、市全体への波及効果を期待しています。
- ・情報発信力のある団体であり、「ママ向け防災講座」は団体と行政の協働事業として地域防災活動の良いお手本となると思います。
- ・ママ目線で防災問題に取り組む提案。災難に襲われたとき、効果が発揮できるようになれば良いと考えます。
- ・とても良い事業内容だと思う、開催を楽しみにしている。
- ・子育て中のママの精神的な安心にもつながるものなので、広く周知を図るとともに、事業効果の向上に努めていただきたい。
- ・目的や役割、やりたいこと等がはっきりしていて、行政と団体それぞれの強みを生かした事業計画になっていると思います。数年後にはママ防災が広がり、ママ以外の人たちにも良い影響をもたらすことを期待しています。
- ・災害時に必要とされる「女性・子どもへの配慮」という観点がしっかり取り入れられた防災対策が進んでいくことを期待しています。
- ・市民協働事業で実施することにより、市民目線での防災について、行政だけでは行き渡らなかった方にも啓蒙できるのではと思います。また事業を通じて、女性の活躍推進、コミュニティ推進の一助にもなるものと期待しています。
- ・会員やママ活世代に情報共有するだけでなく、広く市民へ防災に係る情報発信ができるよう冊子の配付のほかにも具体的な方法や手段が更に模索されることを望みます。

### 〔協議内容〕

- (委員) すごく良い内容だと思う。9月～12月に防災講座が開催できない場合に対応できることが条件だとは思うが、その点についても説明で触れられていた。
- (委員) 防災講座など、単に団体側が主体的にやるだけではなく、行政側も講座の中に入り込んでいる事業計画となっており、「協働」の名に恥じない、協働らしい協働だと思う。
- (委員) 団体の母体がしっかりしているので、広報なども問題なくできると思う。補助金の期限である3年間に留まらず、継続して取り組んで欲しい。
- (委員) 2,000人を超えるメンバーを抱える団体でもともと大きいのが、他の子育て団体とも本事業の成果を共有して一般市民レベルで活用できるようにしていくと伺っている。災害時の女性の視点に立った事業で素晴らしいと思う。
- (委員) プレゼンテーション動画でも感じたが、団体としてしっかりとしていたのが印象的。行政とのやり取りも多くされている団体で、協働の意識も強く持ち、慣れていることが事業計画からも

伺える。非常に効果のある事業になるのでは。

〔選考結果〕

交付の可否： 可

交付の条件： なし

補助金額： 300,000 円（満額）

(2) 事業名： 黒澤明監督と御殿場市〔新規(1年目)※前年度はじめての一步事業〕

団体名： 御殿場黒澤明学会

市の担当課： 魅力発信課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・将来への展開を計画していただけたらと思います。
- ・団体と行政の情報発信には限度があり、単にロケ地の看板設置だけでは、来訪者の増加に結びつけるには、難しいと思われます。
- ・御殿場が他の観光地に向かう人たちの通過点ではなく、御殿場の魅力を見てもらい、知ってもらうための事業になると良いと思います。
- ・看板を立てるお金を市が出すだけで、協働と言えるのか不安になる内容です。
- ・継続的に事業効果があられるよう、先を見据えた事業・収支計画に基づいて効果のある取組としていただきたい。また「3 御殿場の魅力発信事業」と内容が重複する部分があるので、担当課の調整等により費用対効果が高まる工夫をしていただきたい。
- ・黒澤監督について若い世代に関心をもってもらうためには、いろいろな方面から仕掛けていかなければならないと思いますが、事業を継続していくことで「御殿場と言えば黒澤明」とイメージされるくらい地元にも観光客にも認知されるように、着実に事業を進めていただければと思います。
- ・黒澤明というキラーコンテンツを観光やシビックプライド醸成に活用が進んでいけばよいと思います。
- ・提案の方法であるプレゼンテーションでは、時間を大幅に超過していたように思います。看板設置事業だけでなく、市民協働事業として実施する寄せ書きや収集した資料を、市にとって有益な記録として後世に伝承できるよう取り組んでいただきたい。
- ・黒澤監督と当市の関わりを後世に残していくことは大事だと思いますが、監督自身を知らない市民が多くなっているのも事実です。看板設置や単なる情報発信だけでなく地元の活性化にはつなげるには個々にストーリー性を持たせて仕掛けることが必要ではないかと思います。

〔協議内容〕

(委員) 黒澤明監督は確かに有名だが、御殿場市民がどの程度知っているのかは疑問がある。後世に記録を残していくことは非常に重要だと思うが、今回提案いただいた「看板の設置」について、単に情報発信だけではなくそこからどのように発展していくのかの視点がないと、看板を設置しただけで終わってしまう。

(委員) 事業計画③の寄せ書き集めは「協働事業」として新たに行うものではなく、既に行っている

事業ではないのか。確かに記録として残すことは大事で、それを今後市のために有効に活用していくことができればよいが、そうでないと団体の思いだけの事業になってしまうので、団体と市の担当課がしっかり調整する必要があると思う。

- (委員) 事業計画書を見ると「看板だけ」の事業の印象を受ける。市として協力することがあるのか疑問に思う。他の委員からもあるとおりに「今後の展開」があれば面白いとは思いますが、昨年度の「はじめの一步事業」からステップアップして本格的に活動する 1 年目の事業としてはインパクトが弱いと感じた。
- (委員) 事業計画の中に看板のイメージやデザインも入れていただければよかった。プレゼンテーション動画や事業計画書を見ると、不安が残る。今後どういった展開を考えているのかがよく分からない。
- (委員) 事業計画として、「看板の設置」だけにこだわるのはどうかと感じた。もっと若い方への周知や関心を持ってもらうための取り組み(上映会などソフト面での取り組み)が必要では。
- (委員) 仮に「聖地巡礼」のような形で御殿場のロケを訪れていただくことを考えるのであれば、「看板を 1 箇所だけ立てる」というのは PR としても弱いのでは。
- (事務局) 設置後の責任の所在を明確にすることについて条件を付す必要があるのでは。団体として存続し続ける保証がない中、維持管理も含めて責任の所在を明確にしておく必要があるのではないか。
- (委員) 設置にあたって地権者と団体でしっかりと話し合い、団体が責任を持つことについて明確にしておくべきでは。
- (委員) 過去に市民提案事業で同様に看板を設置したものがあり、都度、責任の所在に対する意見は出てはいたが、明確にはしてこなかった。団体として管理ができないのであれば交付すべきではないとなるのでは。
- (牛山教授) 採択の条件とするとしても、団体は任意団体のため守られる保証はない。より確実にするためには「看板の所有権」が誰にあるのかを明確にするよう求めるべきでは。

#### 〔選考結果〕

交付の可否: 可

交付の条件: ・次年度以降の事業計画にあたっては、ソフト面の事業の充実を図るよう、事業内容を十分に検討すること。  
・看板の設置にあたっては地権者、地域、行政などと十分に調整するとともに、看板の所有権について明確にすること。

補助金額: 162,000 円 (満額)

- (3) 事業名： 御殿場の魅力発掘事業〔新規(1年目)〕  
団体名： 御殿場の魅力発掘隊  
市の担当課： 魅力発信課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・幅広い年齢層の視点も取り入れて取り組んでください。
- ・今年度の事業計画の内容では、若い世代への継承や市内外への PR で御殿場への来訪者の増加は限定的と思われます。
- ・御殿場には宝物がたくさんあります。それを多くの人たちに知ってもらえる企画となるといいですね。
- ・次年度以降の内容が未定すぎる。今回の取り組みのための団体に感じる。補助金ありきで考えているように感じる。期間後の運営を不安に感じる。
- ・継続的に事業効果があらわれるよう、先を見据えた事業・収支計画に基づいて効果のある取組としていただきたい。「2 黒澤明監督と御殿場市」と内容が重複する部分があるので、担当課の調整等により費用対効果が高まる工夫をしていただきたい。
- ・地元の人でもあまり知らないような御殿場の魅力を多くの人にわかりやすく知ってもらう仕組みづくりを、事業を進めていく中で検討していってもらえればと思います。
- ・初年度で制約があるかもしれませんが、今後の展開や経済効果を考えても、やはりエリアや観光資源のとらえ方に偏りがあるのではと感じます。また、黒澤明に関して何に取り組むのか明確でないため、提案事業 2 との具体的な役割分担あるいは連携方策が見えない(取組が重複しないように配慮されたい)。
- ・御殿場の魅力を発掘し活用していくということで、今後の発展性に期待できます。設立後まだ間もない団体(組織)ということで、活動内容の確立と安定した団体運営をしていただきたい。
- ・テーマごとに動画などを使い記録として残していくことは大事ですが、その前に前提を考えず団体名のとおり、まずは埋もれている又は忘れられている市内の魅力や価値の一つでも多く掘り起こしてくれる事業があってもいいと思います。

〔協議内容〕

- (委員) 団体の名前が「御殿場の魅力発掘隊」ということで、市民レベルで御殿場市の魅力を発掘してくれるのではないかと期待をしていたが、事業計画では最初からの(テーマ)を絞って活動することについて、少しがっかりした。最終的に的を絞ってやっていくことは良いと思うが、最初は「どんな魅力が御殿場にあるのか」をがむしゃらに掘り出していく事業があっても良かったのではないかと思う。
- (委員) 少し前に新聞記事で、御殿場高校の子ども達が同じように御殿場の魅力を見つけるような取り組みをしていたと思うので、そういったところと協力できると良いと思う。この団体だけで事業を行うことについて大丈夫か、不安がある。
- (委員) 団体自体もこの 3 月に有志で立ち上がったばかりで、活動の実績もあまりない中でいきなり市民提案事業 30 万円の補助金を受ける、内容も地元のお祭りをちょっと紹介するようなものとなると、本当に大丈夫かと思う。
- (委員) 「魅力発掘」ということで、地元の方にも知られていないようなことを事業として調べていくと

思っていたが、3つのテーマがいずれも他の団体でも取り上げられているもので、それを紹介するというのが、事業としてできる範囲が狭いのではと感じた。はじめからテーマを絞るのではなく、色々と調査・研究していく中で弱い部分をテーマとして取り上げていく方が良いのではと思う。

- (委員) 予算としてはHP管理委託、ドローンの借上料が予算の大半を占めている。前年度の実績もあり、その上で「ドローンを使って何かやりたい」であれば分かるが、「色々なことをやりたい」というように見えて、全体の印象が薄い。
- (委員) 地元ならではの魅力を、という視点だとは思うが、「どういうテーマで」という部分が見えづらい。事業の継続性や発展性で見た場合、収支予算もそうだが、果たしてこの事業が効果のあるものとして続けていくことができるのか疑問。
- (委員) 今年度テーマとして取り上げた3つを見ると、30万円の補助金をかけてやるほどのボリュームがあるのか疑問。テーマにしても、特に「黒澤明監督のロケ地」と「御殿場駅周辺」については、もうちょっと観点を変えた方が良いのでは。
- (委員) もうちょっとテーマとなり得る題材を発掘してから事業に取り組むべきでは。
- (委員) テーマに偏りを感じる。広く御殿場の魅力を発信したいということではなく、自分たちのお祭りを取り上げたいという印象。2年目以降の事業計画として、「1年目のテーマの一部継続」としているが、そんなにだらだらと続けられるのもどうかと思う。
- (委員) テーマとしている「牛淵の雨乞い祭」について初めて聞いたが、どのようなものか。人が呼べるようなものなのか。ドローンを使うことで皆が見たがるような凄く良い画が撮れるのであればよいが、そういった感じではないのか。
- (委員) 会員数10人について、それぞれ今回取り上げた3つのテーマ別にやりたいことが分かれて別の方向を向いている、「魅力発掘」という一方向に向かっていないのでは。
- (委員) プレゼンテーション動画では様々な年代の方に広く魅力をお伝えしたい旨説明していたが、そのために目的がぼやけてしまっているように感じる。
- (委員) コメントでも書かれているが、「2 黒澤明監督と御殿場市」でも同じ「黒澤明監督」をテーマとして取り上げているので、上手く協力・連携して事業に取り組めるように市の担当課で調整すべきでは。
- (委員) 「2 黒澤明監督と御殿場市」は看板の設置がメインになるので、上手くコラボできるように市の担当課で調整して相乗効果が生まれるようにしてほしい。
- (委員) 「黒澤明監督」については上手く市の担当課で調整してほしい。具体的に何をやりたいのかが全く書いていないので連携・調整できるかも分からないが、後々確認したら「それぞれ同じことを調べていた」というようなことがないようにしてほしい。
- (委員) 御殿場駅周辺と言いつつ、対象は乙女口だけで、「乙女口の案内図を作りたい」と言っているが、何故富士山口側に広げたくないのかが分からない。富士山口の方が歴史もあり、飲食店も多くあるため、経済効果等を考えればそちらにも目を向けるべきだと思う。
- (委員) 団体として実績を積んで欲しい。これまで団体を周知するような活動をしてきたのか。団体として「補助金を受けたら活動する」という印象を受ける。ドローンやHPにしても、自分たちでできるものがある中で、より質の高いものを作りたいという意図があるのなら分かるが、「とりあえず何でもかんでも」という印象が拭えない。
- (委員) 最初に事業計画を見たときに、3つのテーマがバラバラだと感じた。質問事項への回答の中

ではそれぞれのテーマを取り上げた理由を団体なりに示してはいるが…

- (委員) この事業について 30 万円満額を出すのはどうかと思う。「はじめの一步事業※上限 5 万円」でも良いのでは。
- (委員) まだ団体として実績が何もない中で、HP を独自に立ち上げるのではなく、市の HP のコンテンツとして始めるなどの方法もあるのでは。
- (委員) 事業計画・収支予算の一部について認めないとする場合はあるのか。
- (事務局) これまでも一部の収支予算を認めないとした場合はある。
- (牛山教授) 本補助金は事業に対する補助金で、「この目的のためにこういった事業を行いたい、そのための収支予算はこれです」ということで、一体で事業計画を出している。基準との不適合など根拠を明確にした上で一部支出を認めない、また団体としての能力を鑑みて事業を認めないとする場合はあると思うが、単純に金額が大きすぎるから少なくする、というのは違うと思う。
- (委員) 2 つの団体から同じような事業提案があった場合に、行政側としてどのような対応が求められるのか。
- (牛山教授) この制度が行政との協働を軸にしているので、担当課の方でどう考えるかだと思う。単純に団体同士に話し合わせて調整する、という話ではなく、補助金を出すものとしてどちらも効果が出るものであれば両方に出せばいいし、一方の中身がないからもう一方にやってもらおうというのであれば、片方は落とす。協議会としては例えば「担当課に調整を促す趣旨の意見を付す」ことはできると思うが、「調整をしなさい」ということは言えないと思う。やはり、審査としては単体の事業として行うべき。
- (委員) 審査の結果、補助金の交付を認めないとする選択肢もあるのか。例えば牛淵の雨乞い祭には行ったことがあるが、内容を見ると観光に結び付けられるようなものではないと思う。StayHome が広がる中で、YouTube には様々な動画が上がっており今後も増えていくと思うが、動画を上げて情報発信していくために、HP を管理していくのもどうか。私としては、この事業への補助金交付はなしとしても良いのではと思う。
- (委員) 1 年目の事業提案ということもあるので、今年度はやっていただいた上で様子を見るということでも良いのでは。
- (委員) この事業内容では動画を作成して YouTube などに掲載すればいいのであって、敢えて現時点で HP を作る必要はないのでは。今後事業を進める中でどうしても HP が必要だという場合に予算を計上してもらうようにしては。
- (委員) やはり団体や事業の内容を見ても、「はじめの一步事業」で良いと思う。動画撮影や情報発信にしても、HP に限らず facebook や Instagram など無料でできる方法がある中で、敢えてお金を掛けて HP を作って情報発信することについて疑問に思う。
- (牛山教授) 確かにせっかく事業提案いただいているので、1 年目は様子を見ようという優しい判断をするのも良いけれども、現在の制度上 3 年までしか補助が出ないのだから、提案事業の企画が甘いのであれば、今年度は補助を認めず、アドバイスをしつつ事業計画を組みなおしてもらって次年度に再度提案いただく方が、結果として団体にも良い形になるという考えもあるのでは。
- (委員) 今回交付を認めない理由としては、「出来たばかりの団体なので、この 1 年間は団体が本当に団体としてやっていけるのかを見たい」ということも言えるのでは。
- (委員) 交付を認めないとした場合に、団体自体の活動をやめてしまう心配もあるので、事業計画・

予算を再度精査していただくという形でも良いのでは。

- (委員) 1年目補助金を出した場合でも、2年目の事業提案を見て不許可とする場合もあるのか。
- (委員) 毎年度審査するので、あり得る。
- (委員) 提案いただいている各事業で発生する費用と事業収支予算がどうリンクしているのか、内容が不明瞭なところが多い。
- (委員) 採点結果を見ると、そこまでポイントが低いわけではないため、「収支を含めた計画の妥当性」の部分だけ事務局で調整して見直していただければよいのでは。
- (委員) 「採択はするけれど、精査した結果一部認めない可能性がある」とするのか、それとも採択した時点で30万円支払われることになるのか。
- (事務局) HPを作成しての動画掲載という事業内容が不適當ではないかとの意見を付して採択する場合であれば、その提示いただいている金額で良いのか精査をするという考え。
- (委員) 事業としては採択するけれど、HPが不適當なのでYouTubeに掲載して、というのも乱暴ではないか。
- (牛山教授) 「軸となる事業の本体」が何なのか判然とせず、「あれもこれもやりたい」となってしまうことは問題。ドローンによる空撮をしたいというのはあくまでもコンテンツの問題であって、それが非常に効果的で、HPに掲載することが市民のためになる事業であるという形になっていけばいいが、「そうではない」と判断するのであればそれは許可できないとなるのでは。
- (委員) 他の委員の意見にもあったとおり、テーマが弱い。もっと広く、一本筋を通してテーマを決めて取り組む、といった具合でもない。とはいえ、2年目はより厳格に審査することを伝えた上で、1年目は好きにやっていただくというのも考えとしては良いと思う。
- (委員) 市の担当課がどれだけ、どのように関わることができるのかが重要だが、関りが少ないように思う。担当課としての意見・調整をしっかり行って欲しい。
- (委員) 団体としての意欲はあると思うが、それが企画の中に上手く反映できていないことで疑問が生じてしまっているのではないか。しかし「市民協働」でやってみたいと考えた思いは汲む必要があると思う。今回、多くの意見が委員から出されたこと、懸念することがあるということを条件に付した上で、1年間事業に取り組んで欲しいと思う。

#### 〔選考結果〕

交付の可否: 可

交付の条件: ・協議の中で出された疑問、懸念事項を承知いただき、事業に取り組むこと。

#### 《補足説明》

本事業の審査では、団体、事業内容、収支予算の多くの点に疑問、懸念が示されました。また交付の可否についても意見が割れました。これらの疑問、懸念事項があった上で、今後の発展に期待して交付を可としたことを承知いただき、本年度事業や次年度以降の事業計画の実施・調整に取り組んでください。

補助金額: 300,000円(満額)



- (4) 事業名： 駅前就労者コミュニティ創出事業〔新規(1年目)〕  
団体名： NPO MiCS(ミックス)  
市の担当課： 商工振興課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・コワーキングスペースを用意したからといって、事業者が必ず集まる訳ではないので人を集める仕組み作りに期待している。3年後、運営側の収支がプラスになり、更に御殿場の活性化に繋がっていることを期待します。
- ・新しい生活様式の中で発展する事業だと期待しています。
- ・認識不足を痛感しておりますが「コワーキングスペース」という概念を始めて知りました。今年度はコワーキングスペースの必要性を調査することが主目的のようで、今後の事業展開に期待します。
- ・駅前が人々であふれ、活気が戻る道へとつながることを期待します。
- ・駅前の活性化に影響あると思い期待している。ただ市民のニーズが本当にあるのかよく調べてみる必要があるかと思う。駅前でなければ「ふじざくら」など便利な施設もあるので。
- ・コロナ禍により、働き方や仕事の進め方にも変化が現れてきている中、本市の状況に合った取組を進めることで、市内経済の活性化につなげていただきたい。
- ・御殿場市のコワーキングスペースのニーズがどの程度あるのかは実際に事業を始めてみないとわかりませんが、駅前に開設することで駅前の活性化にもつながるような働きかけを行い、今までにない効果もたらされることを期待しています。
- ・コロナ禍の経験も踏まえてテレワーク環境が進んでいくのは好ましいと思います。また異業種間のコラボレーションが進み地域活性化が促進される期待もあります。
- ・御殿場市内において、就労者向けワーキングスペースの需要がどの程度あるか、利用者の意見をどの程度集められるか分かりませんが、関係人口の創出や御殿場駅前の活性化につながるよう事業を実施していただきたいと思います。
- ・まずは新たな試みを実践してみるというチャレンジ性は評価しますが、この事業を通して何をしたいのか、具体的なイメージがつかみにくく感じました。単なるテレワーク場所の確保にならないよう交流、コミュニケーションの足掛かりにつながることを期待します。

〔協議内容〕

- (委員) BE-ONE ビル 5 階のどの部屋を利用する計画か。  
(事務局) 元々観光協会事務局が入居していたスペースと伺っている。  
(委員) コワーキングスペースについて、本当に御殿場市の駅前に必要とする市民の声が高まっているのか疑問がある。市民交流センター“ふじざくら”などの有用な施設がある中で、駅前に置かなければいけない理由について、1年間設置・運営する中で精査してほしい。  
(委員) 仕事で御殿場に来られる方を対象にしているので駅前に開設したいという意図では。  
(委員) 駅前にスーツを着てきている人はそれほど見かけないが…やる価値はあると思うが、空振りになる可能性もあるので、その点についてはよく見ていく必要がある。  
(委員) 「やってみないと分からない」というのはそうだと思うが、意図したものとは別のところで思いがけず良い成果が出ることもあるので、とりあえず1年間は様子を見てみたい。

- (委員) 以前、協議会の視察研修で愛知県岡崎市に訪問した際に、創業支援を行うワーキングスペースのような施設を視察したことがあり、御殿場でこのような提案が出てきたことについて非常に期待している。ただし開設時間が11:00~19:00というのは利用しにくいのでは。
- (委員) 運営にあたって観光ボランティア協会から支援いただくこととしているが、調整はできているのか。
- (委員) 事業計画やプレゼンテーション動画を見て、この事業で何をしたいのかのイメージが掴みにくいと感じた。このたびのコロナ禍の中で、テレワークなどの場所の確保という意味合いもあるかと思うが、新しい取り組みとして試みることに価値もあるかと思う。この1年間でニーズ調査等も行っていくということなので、どのようにニーズにこたえられる場所になっていくのか見ていきたいと思う。

〔選考結果〕

交付の可否: 可  
交付の条件: なし  
補助金額: 300,000円(満額)

- (5) 事業名: 御殿場市における生物多様性の調査・啓発活動〔2年目〕  
団体名: 特定非営利活動法人 土に還る木 森づくりの会  
市の担当課: 環境課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・今年にはコロナで実施不可だが、行政が市内外の企業や各種団体へCSR活動(富士山清掃)として呼びかければ、更にまちづくり協働事業として良いものになる。土に還る木 森づくりの会の発展にも繋がる。
- ・より多くの市民への啓発活動、よろしく願います。
- ・テキスト・資料の共同制作、各種イベントの共同開催等は、昨年度の反省を踏まえて団体と行政の協働(共同)を実施してほしいと思います。
- ・市内の小中学校の生徒に向けた事業効果が広がると良いと思います。
- ・良い事業内容だと思うので、PRもしっかりして、より多くの市民を巻き込んでもらえればと思う。
- ・専門性が高く、市民協働による事業効果は高いと思われる。団体と行政間の連絡調整を密にし、将来を見据えた環境施策に活かしていただきたい。
- ・新型コロナウイルスの影響により、活動が制限されてしまうかもしれませんが、子供たちにとっては貴重な体験をする良い機会ですので、状況を見ながらできる限り実施できるように対応していただければと思います。
- ・御殿場の魅力である自然や生き物の豊かさを後世に引き継いでいくため、この協働事業の成果が本市の生物多様性戦略策定に役立てられることを期待しています。
- ・専門性の高い調査等を実施し冊子の作成・配布まで進み、今年度は啓発がメインになりそうなので、まさに行政の役割が重要になってくると思います。

〔協議内容〕

- (委員) 今年度は昨年度のように冊子を作る事業ではない？冊子を生かして環境教育に取り組んでいく。
- (委員) 団体としては実績もあり、2年目の事業だが、同じような事業を続けているのでインパクトが薄い印象。
- (委員) 内容としては小中学生の子ども達を対象としたもので、「御殿場にある資源を活用した」「子どもに向けた事業」という点で補助金を交付する意味のあるものだと思う。
- (委員) 昨年度も同じ中学校で総合体験講座を行う計画だったが、もっと別の学校にアプローチするなど、広く市内の子ども達に行き渡るような働きかけをしてほしいと感じた。
- (委員) 私はこの団体を昔から知っているが、団体を知らない人も多いように感じる。是非活動のPRにも力を入れてほしい。
- (委員) 昨年度の事業の反省事項の中で、行政との関りが薄かったというものがあったので、是非担当課と密に連携・協力して事業を実施してほしい。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

交付の条件: ・特定の学校だけでなく、より広く市内の子ども達に事業の効果が行き渡るように事業に取り組むこと。  
・昨年度事業の相互評価(見直し)の結果を踏まえ、団体と行政の連携を密にして事業に取り組むこと。

補助金額: 300,000円(満額)

- (6) 事業名: 「富士の麓の美味しいレシピ おうちでいただきます」情報発信事業  
〔新規(1年目)〕
- 団体名: 富士の麓の美味しいレシピ 御殿場プロジェクトチーム
- 市の担当課: 観光交流課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・他の事業は担当課がひとつに対し、この事業は複数の課と協働するといった特別な事業だけに期待が大きい。YouTube(SNS)閲覧数の伸びしろによって御殿場の食材や店舗の周知へと繋がるので、御殿場市の宣伝力が問われる。
- ・たくさんの可能性を秘めた事業だと期待しています。
- ・コロナ禍の中、様々な媒体で芸能人等の簡単レシピ等が紹介されているので、それらに負けない動画配信と富士山GOGOエフエム等の広報活動に期待しております。
- ・現状に見合った企画だと思います。家でおいしい食事ができる手法を学べると楽しいです。
- ・とても良い事業内容だと思う、更なる発展を期待している。
- ・コロナ禍により疲弊した市民生活の支援、市内経済の回復につながるよう、ニーズ把握に努めつつ、柔軟に取り組んでいただきたい。

- ・御殿場の食をPRする手段としてとても良い事業だと思います。長く継続できるように関係団体と推進して欲しいと思います。
- ・コロナ禍を契機に自宅で食事のあり方も見直されていると思います。地産地消推進と市民の食生活を豊かにするために取組が進むとよいと思います。
- ・新型コロナウイルス感染症が拡大する中、新しい生活様式に沿った発案だと思います。様々な自粛で市民が疲弊している中、また来年のオリンピックに向けて、明るい話題提供となる情報発信に期待しています。
- ・メンバーに生産者がいるのでレシピやお店紹介に加え、食材の栽培風景や収穫状況なども入れ生産者の顔が見えるといいかなと思います。

#### 〔協議内容〕

- （委員） 市民が今まで知らなかった地元のお店を、そのシェフやお店の雰囲気も知ることができ、より親しみを感じることができる。市外から来られる方だけではなく、市民にとっても良い事業だと思う。
- （委員） 「ふじのくに食の都づくり仕事人」は市内に16名おり、現在団体には4名が関わっているが、ぜひ活動に賛同していただける方がいればその輪を広げて、団体としても発展していただけたら良いと思う。
- （委員） 自らも農業をしているので、地元の食材を使う地元の飲食店をまずは地元の人に知ってもらい、更に市外の方にも来ていただくという、これまでになかった取り組みは良いと思う。畜産やお米など地元食材を広く使っていただければ農政分野の面でも良い取り組みとなるのでは。
- （委員） 地元の食材やそのおすすめの調理法を、料理人だけではなく生産者の方に紹介していただくという取り組みも良いのではと思う。
- （委員） もっと広く生産者の方と協力していけると良い。

#### 〔選考結果〕

- 交付の可否： 可
- 交付の条件： なし
- 補助金額： 300,000円（満額）

### 3 その他

#### (1) 審査・選考方法に対する意見

##### 〔内容〕

本年度市民協働型まちづくり事業補助金の審査・選考にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めることなどを目的として、例年開催している「公開提案会」を中止し、新たな取り組みとして「プレゼンテーション動画」及び「質問事項への書面回答」を素材とした。このことについて、委員、アドバイザーに意見を求めた。

##### 〔意見〕

- (委員) 従来の公開提案会では意見は1つ2つしか出ないが、今回はプレゼンテーション動画を何度も見直せたこともあったのか、各事業に対して多くの意見があった。かえってやりやすい部分もあったのでは。
- (委員) 資料、動画などはまとめていただけた方が良かった。資料が都度送られてくると、どれが新しいものなのか分からなくなってしまう。ただ、評価をする際に見直しをすることができたのは良かったと思う。
- (委員) 動画として残っているのは、後で見直すこともできるので、事務局としてそれほど手間でないのなら、後で市民にも公開できるので面白い取り組みだと思う。
- (委員) 昨年度、初めて協議会の委員になり、4月にすぐに公開提案会に臨んだときは、プレゼンテーションの後に「それでは質問をどうぞ」と言われても何も質問ができなかった。今回は動画を見直すことができたこと、また「質問事項」を事業ごとに出さなければいけなかったことで、再度見返すなど、事業に対してより熱が入ったのではないかと思う。
- (委員) 次年度以降の審査・選考に当たっては、従来と今回の折衷案として、「公開提案会」とその様子を撮影した「プレゼンテーション動画」の2本立てでも良いのでは。質問事項などについても熟考することができるのでは。プレゼンを受けてその場で質問、というのはなかなか難しい。
- (牛山教授) 次年度以降もずっと「プレゼンテーション動画」による審査を行うという話をしているのか。
- (事務局) 次年度以降も、動画による審査で良いのであれば継続したいと考えている。今回の対応は不特定多数の方が長時間集まるような会議が難しい中での対応ではあったが、仮にそういった状況でなかったとしても、公開提案会は行いつつ動画も残していく方法もあるかと思う。
- (牛山教授) 動画も撮って公開提案会もやるのは、団体側の負担も大きいのでは。動画だけで審査・選考を行う事例は聞いたことがない。
- (委員) 団体・担当課の生の声を聴きたかったと思うし、協議会の反応も知ってほしかったと思う。カメラに向かってプレゼンテーションをしているだけでは、そういったプレッシャーは感じないと思う。
- (委員) 質問が多く出たのは良かったと思うが、その場で質問への回答をいただき、その回答に更に質問を重ねることができず、一度しか、また書面でしか質問・回答のやり取りができなかったのは残念。
- (牛山教授) オンラインでやり取りをすることについて、良い点は多くあると思うが、相手の思いが伝わりにくい、またプライバシーや著作権への配慮などの点もあり、良し悪しだと思う。また、全ての

事業が採択されたのであればよいが、不可となった事業が出た場合、その事業のプレゼンテーションがずっと掲載されてしまうのもどうかと思う。

他の市町では、補助金自体を凍結してしまうか、審査会を延期する、感染拡大防止に最大限配慮して審査を実施する、といった対応をしており、御殿場市の取り組み自体は面白いと思うが、気をつかわなければならないことが多くあるのは面倒だと思う。

(委員) 資料を送付する際に、データでいただくのは良かったが、郵送でも送る場合は一言その旨を添えてほしかった。

(事務局) 以後注意して対応します。

(事務局) 事務局としても試行錯誤で、検討すべき課題は多くあると考えている。プレゼンテーション動画は「限定公開」にしてあるが、既に各団体・担当課には公開とすることについて許諾いただいております。審査・選考の終了後に公開とさせていただく予定でプレスリリースもしている。

また年度末に予定している事業報告会についても動画による方法を行うべきか、次年度事業の審査・選考の時期についても、事業が4月当初から開始できるように今年度中に実施できないかなど、指摘いただいた事項への対応も含めて案を練っているため、今後の協議会において検討いただきたいと考えている。